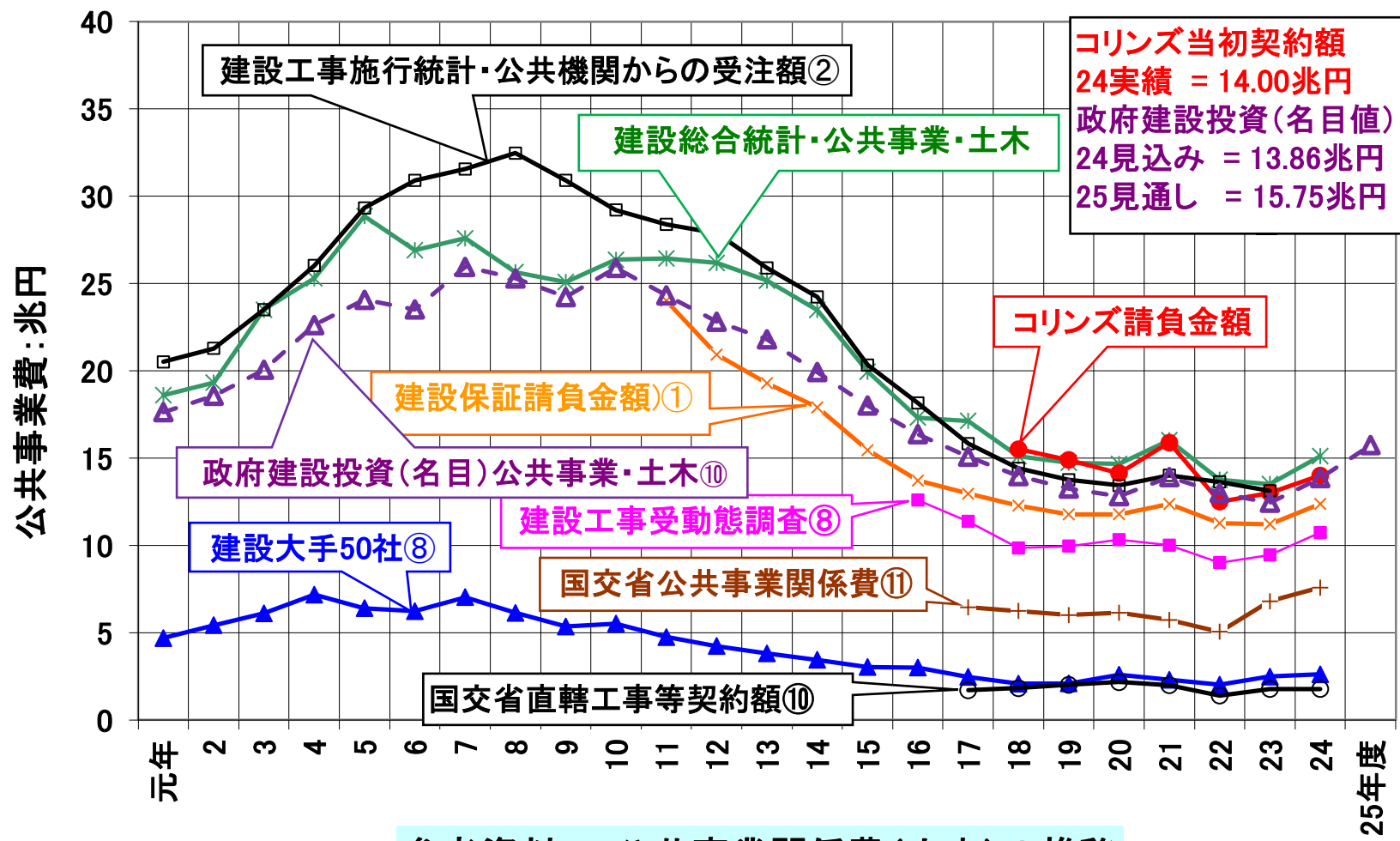


コリンズ・テクリスが示す工事・ 業務の平均請負金額の動向

建設情報研究所 首席研究員 鈴木興道

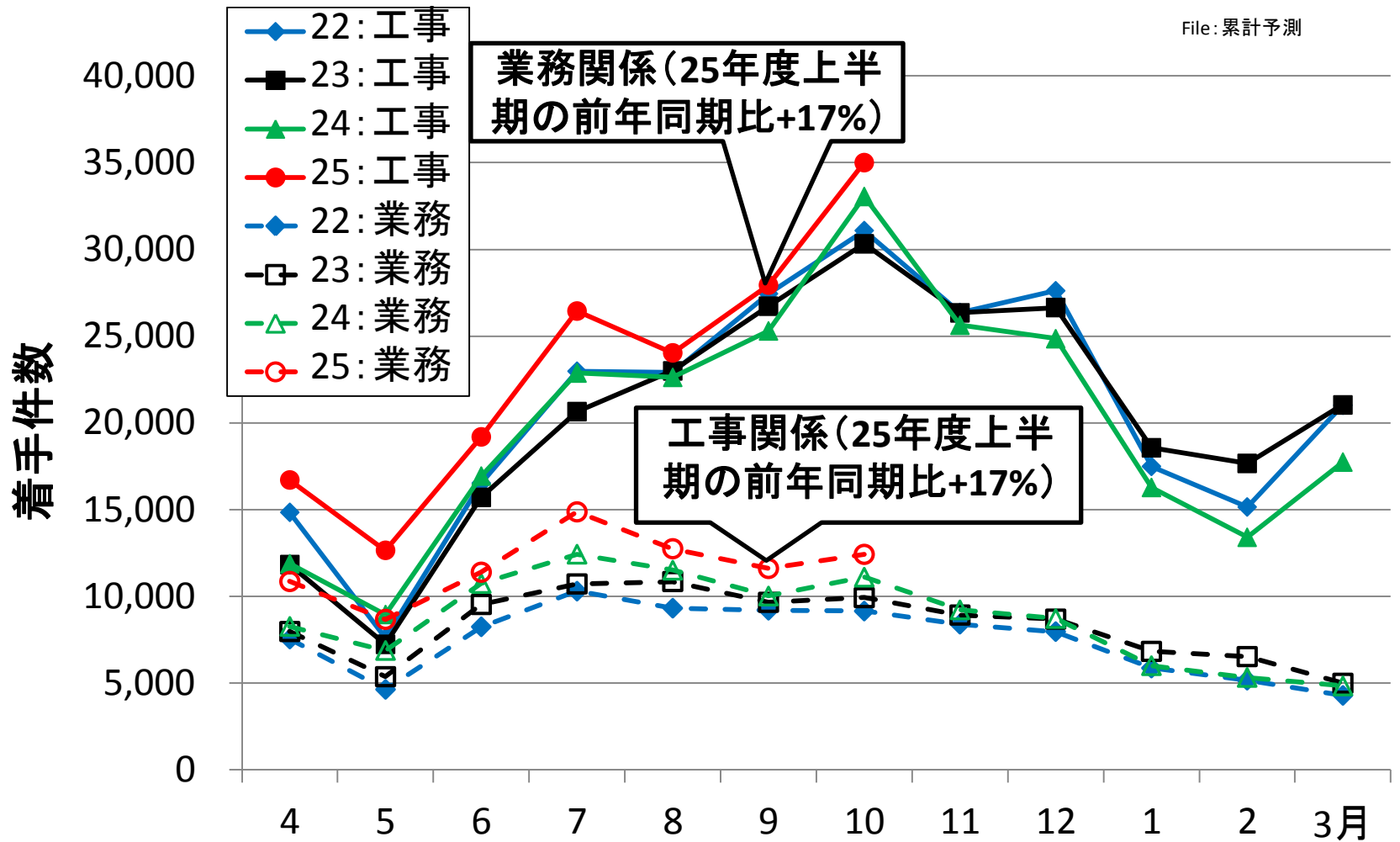
結 論

- 1: 工事は“請負金額の小規模化”から回復しつつある。
- 2: 今年度の工事請負金額は対前年度比9%程度の増加が予想される。
- 3: 今年度の業務請負金額は例年通り安定推移する。



参考資料: 公共事業関係費(土木)の推移

コリンズは施工統計、総合統計、建設投資とほぼ同等。信頼性が極めて高い。



図ー1 コリンズ・テクリスにおける着手件数の推移(全機関)

25年度の件数は、工事・業務共に22～24年度を上回って推移している。

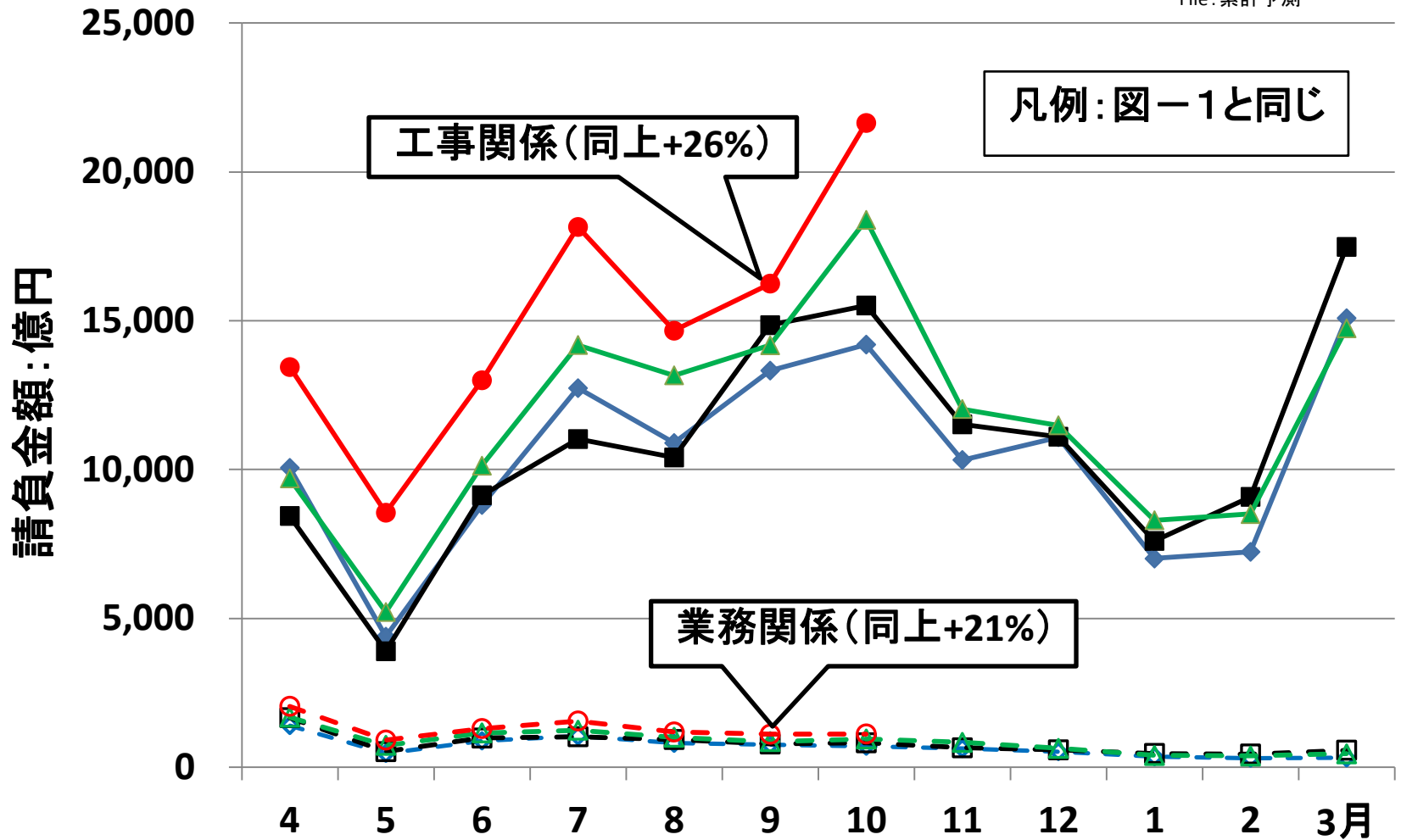


図-2 コリンズ・テクリスにおける請負金額の推移(全機関)

金額も工事・業務共に22~24年度を上回って推移している。

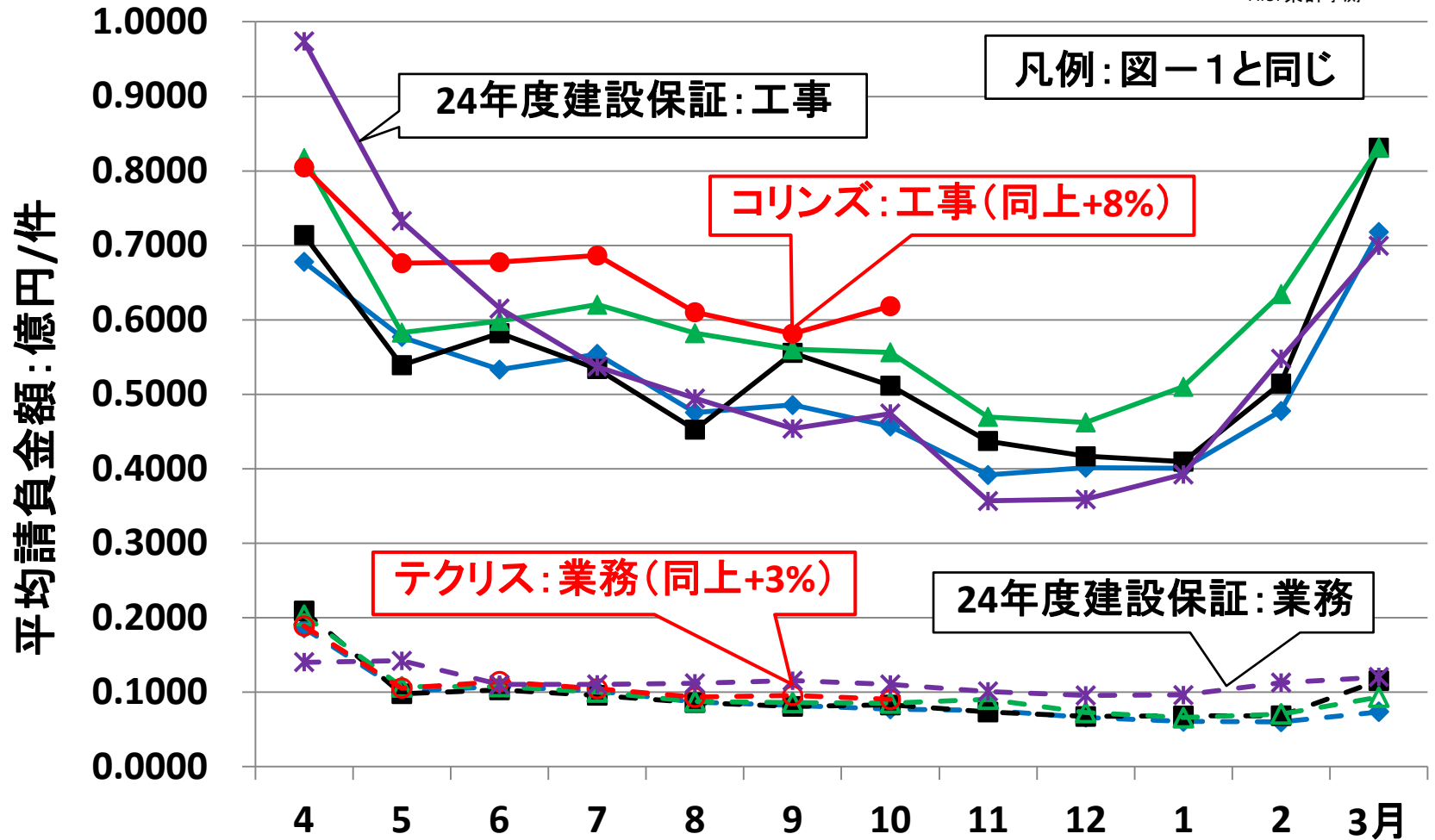


図-3 コリンズ・テクリスにおける平均請負金額の比較(全機関)

結果として上半期の平均金額は、工事8%、業務3%の増加である。

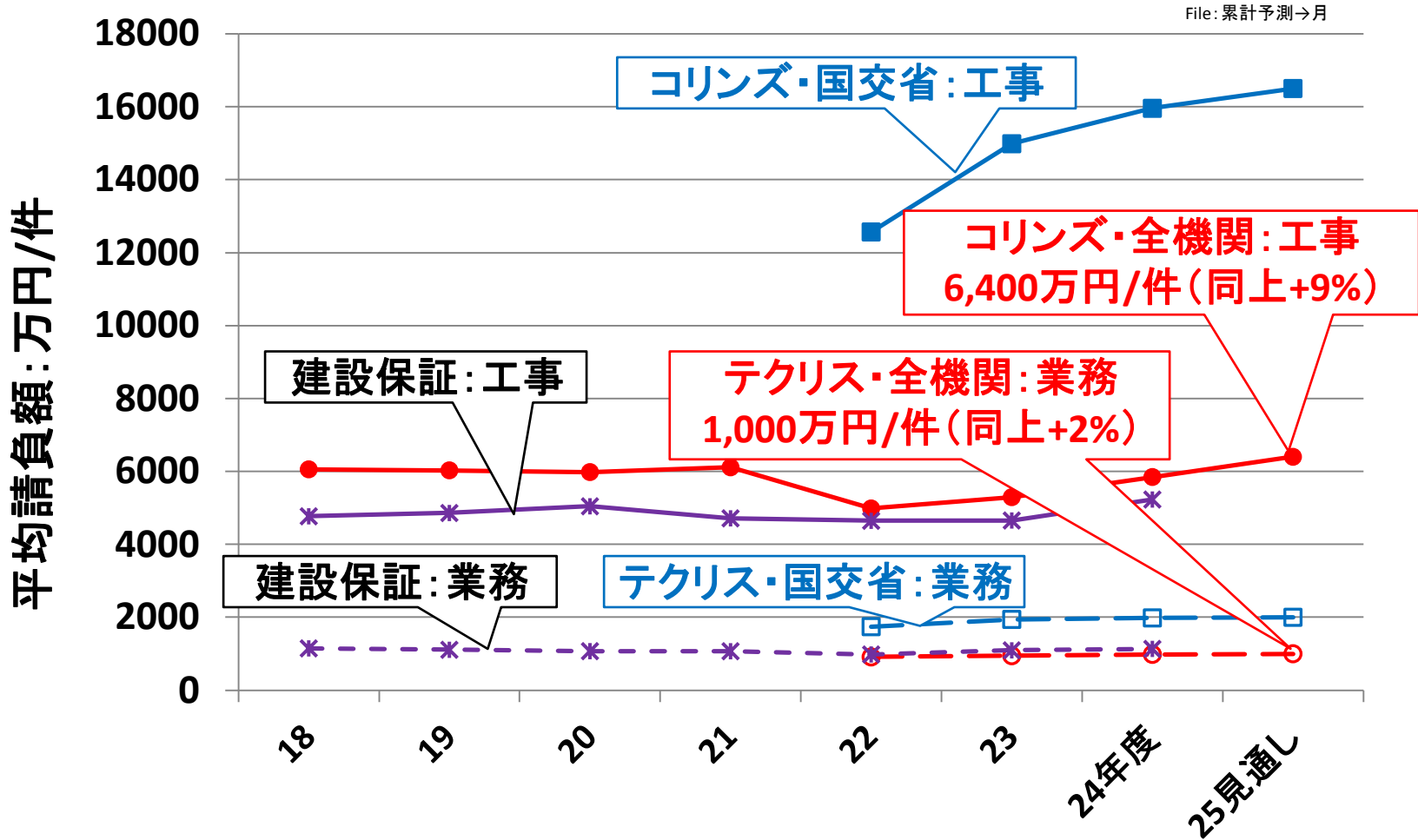


図-4 コリンズ・テクリスにおける平均請負金額の推移
(建設保証会社3社との比較)

トレンドから、25年度は工事9%、業務2%程度の上昇が予想される。

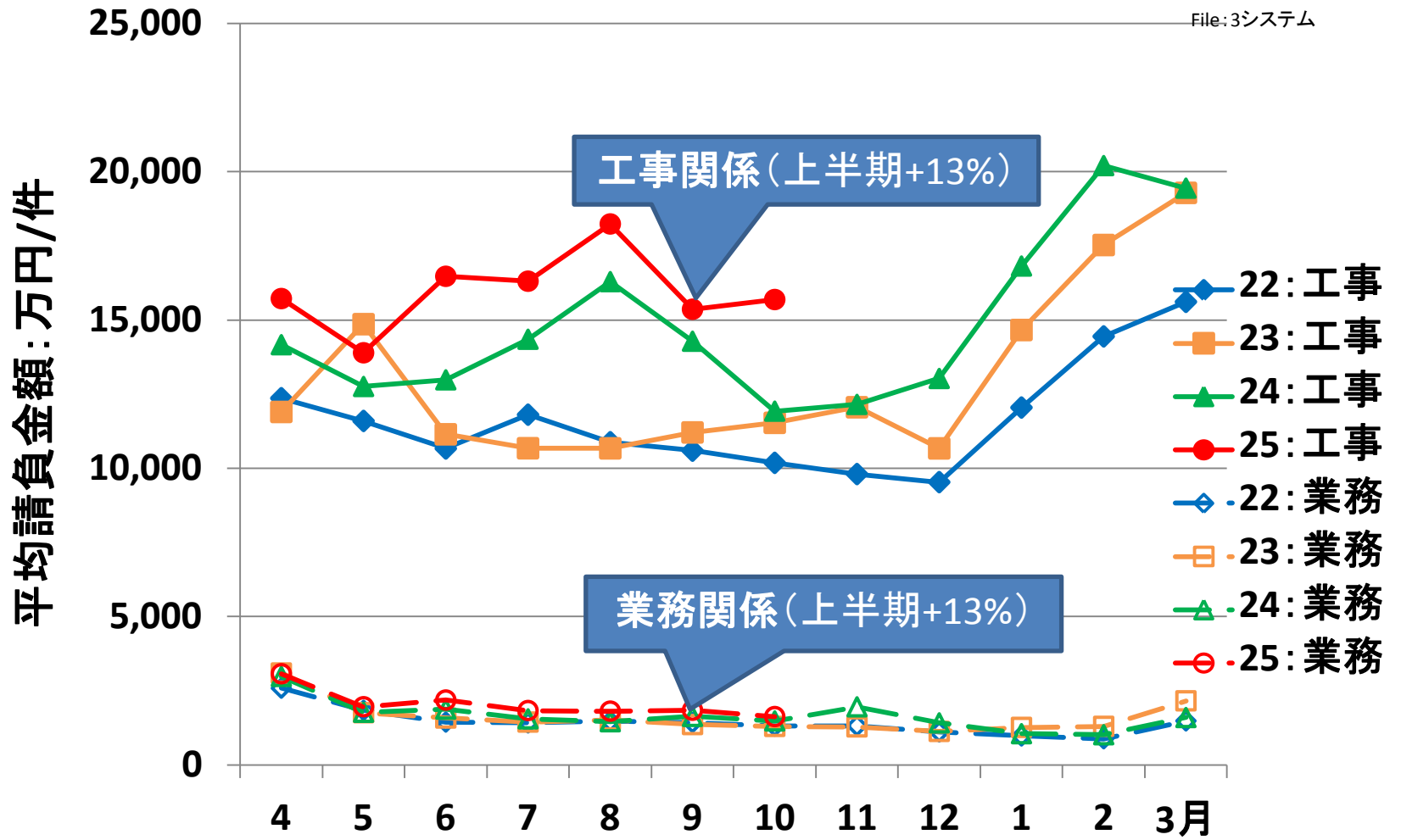


図-5 平均請負金額の推移(国の機関)

政府機関に工事・業務共に13%という著しい増加が認められる。

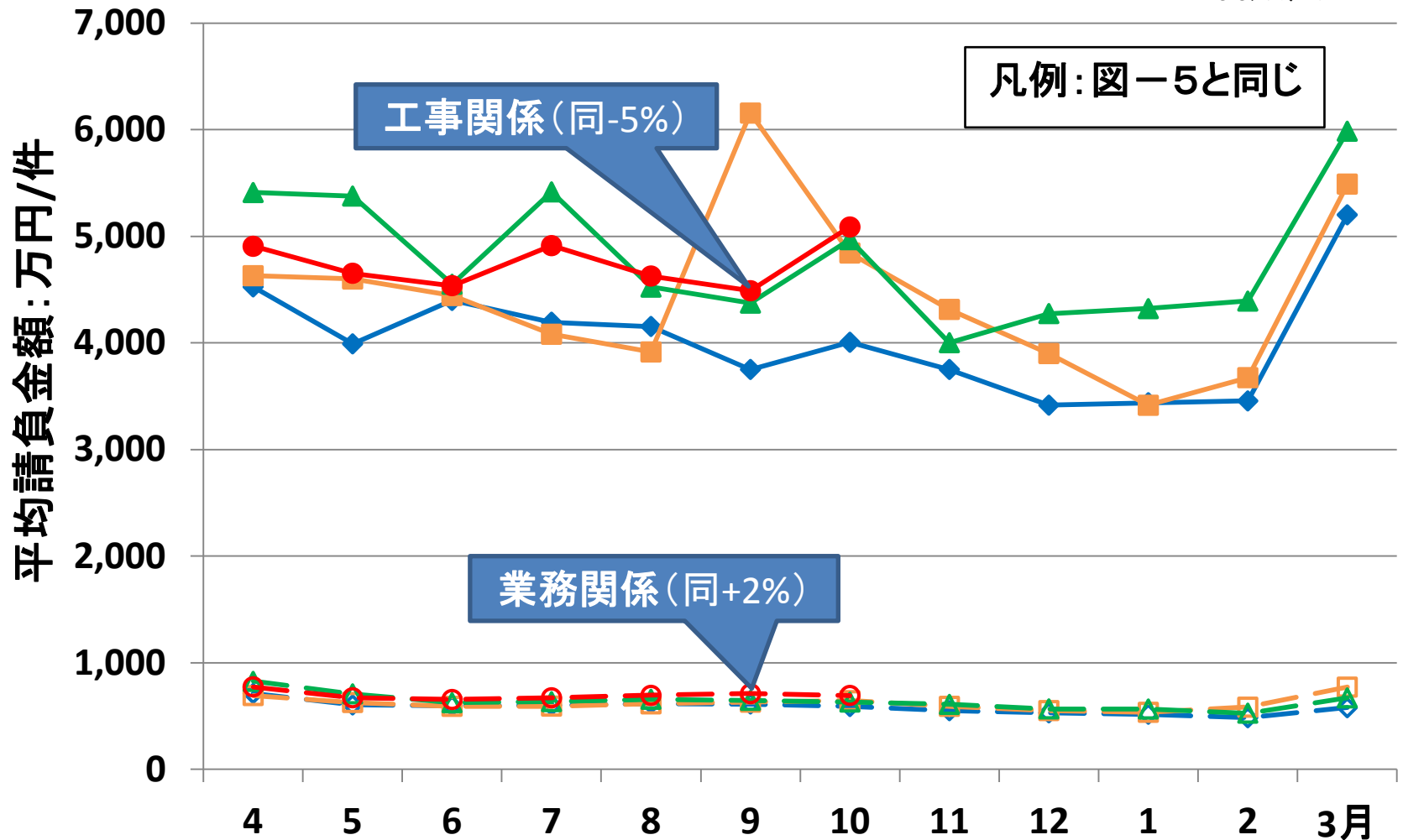


図-6 平均請負金額の推移(都道府県)

工事が上半期5%低下したが、下半期で回復すると思われる。

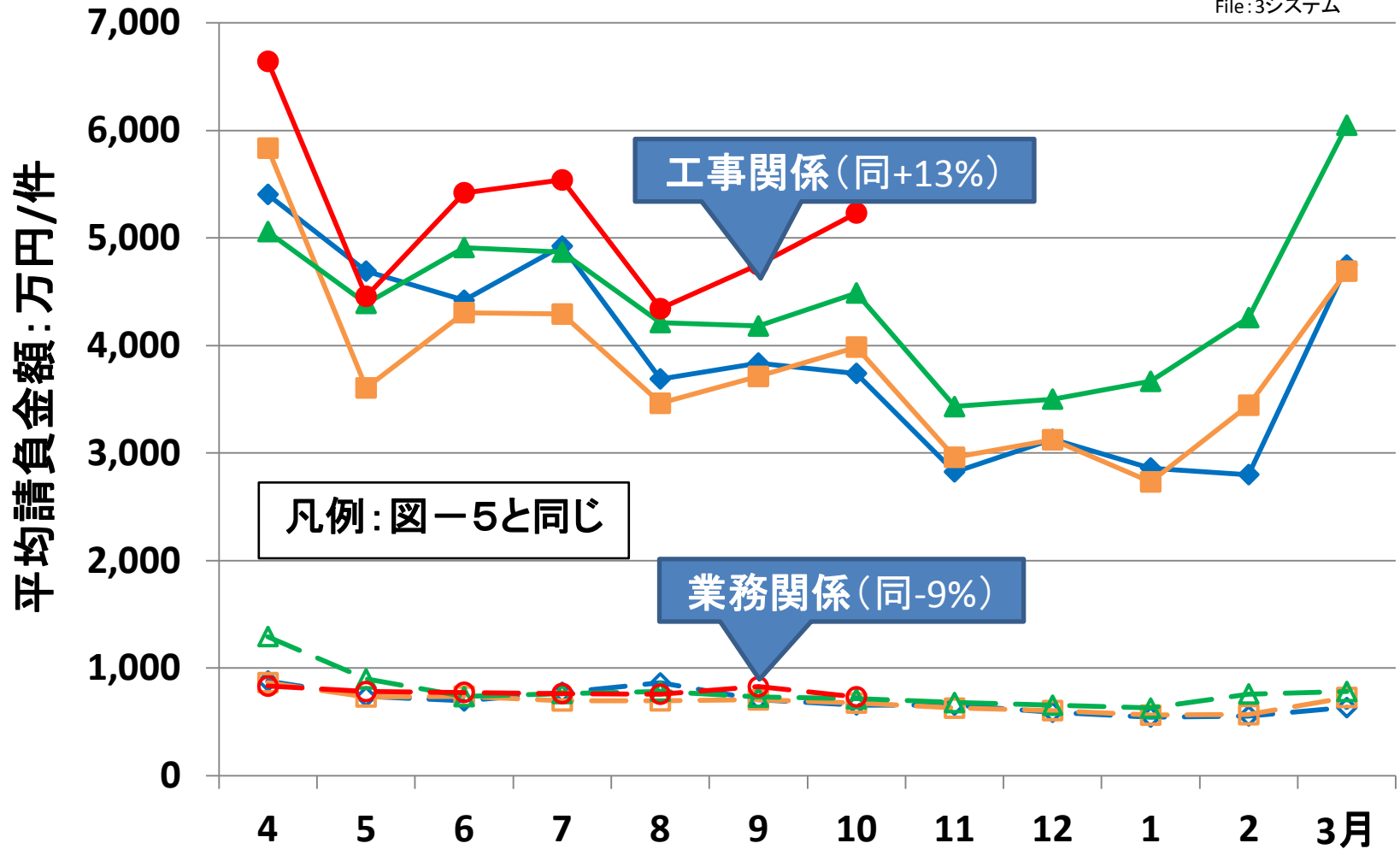
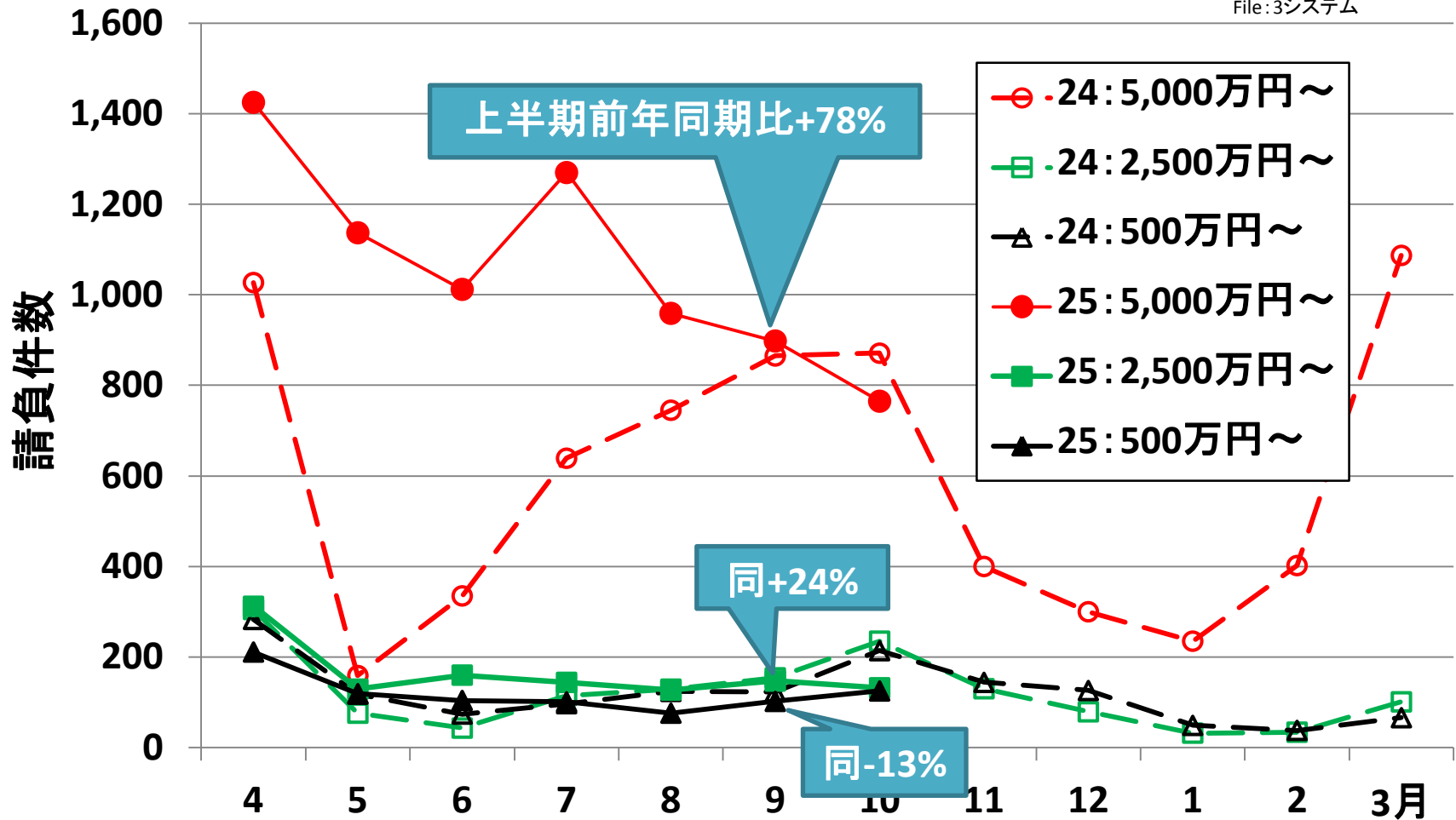


図-7 平均請負金額の推移(市町村)

工事は上半期13%の高い上昇率を示したが、下半期も期待できる。



図一8 国交省旧建設系の請負件数の比較(工事)

5,000万円以上の大型案件が上半期78%と急増したが、下半期の減速が心配。

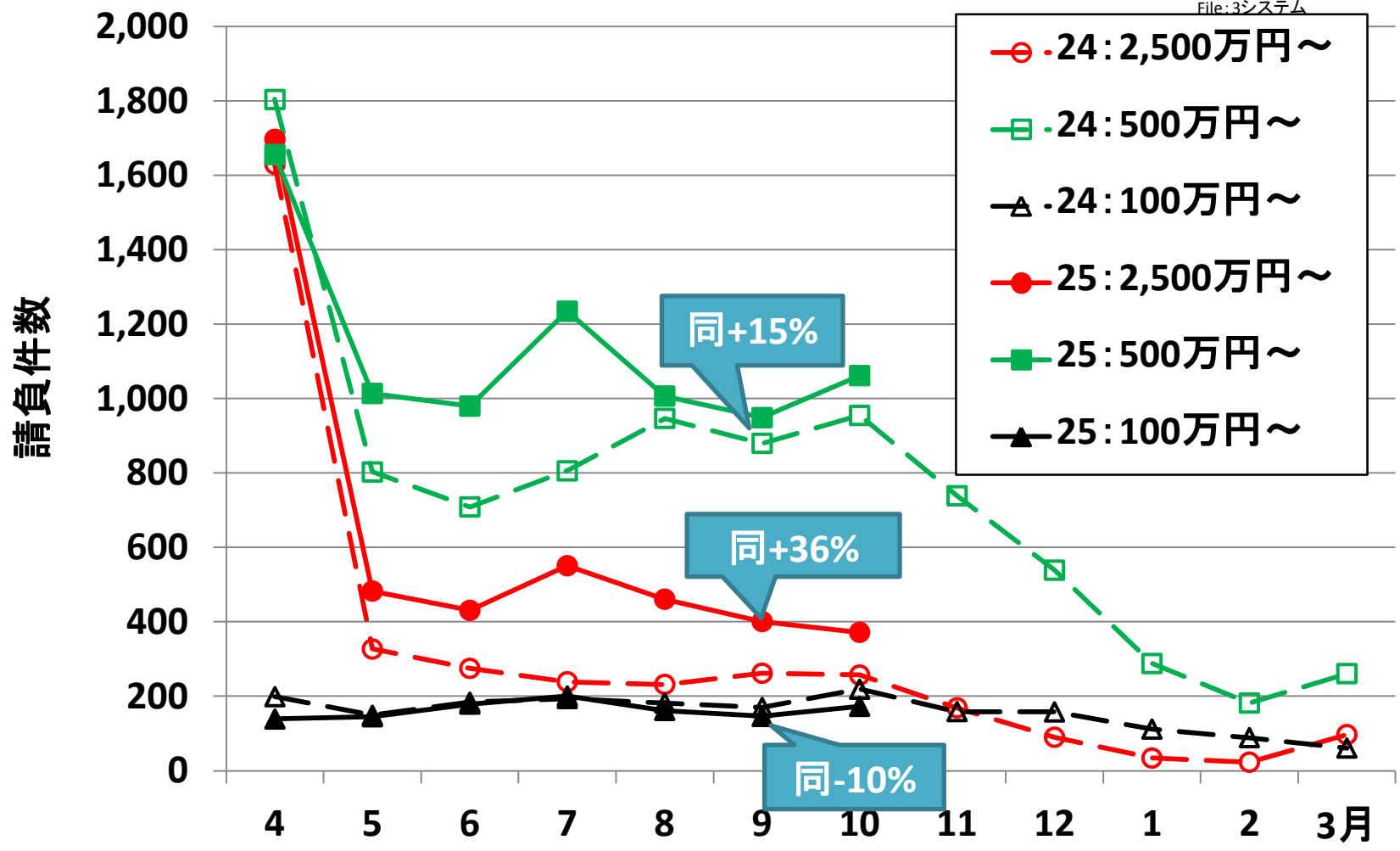


図-9 国交省旧建設系の請負件数の比較(業務)

大型・中型案件は、上半期に増加したが、下半期の減速が心配。

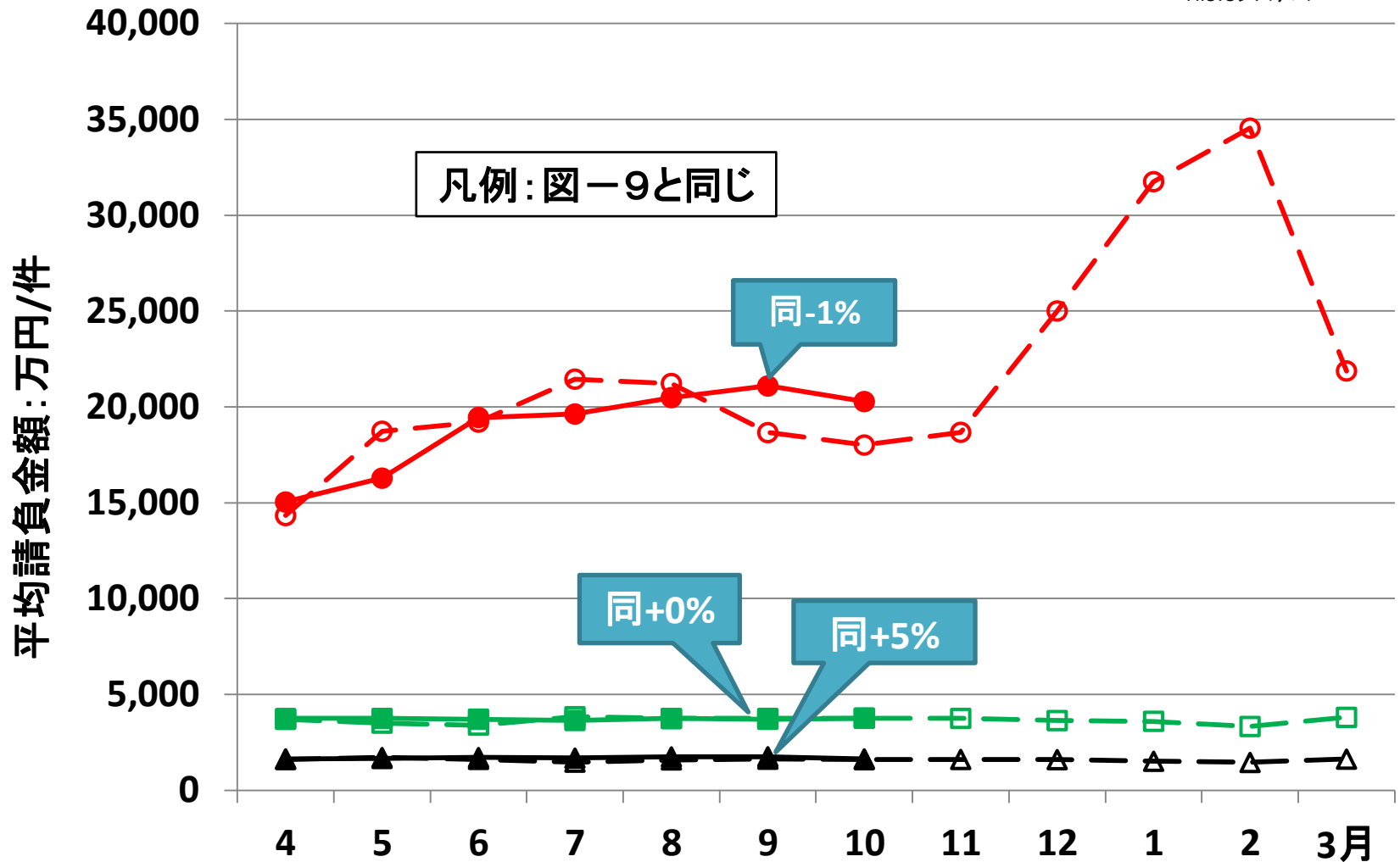


図-10 国交省旧建設系の平均請負金額の比較(工事)

結果として25年度の平均請負金額は、昨年度と同程度に予想される。

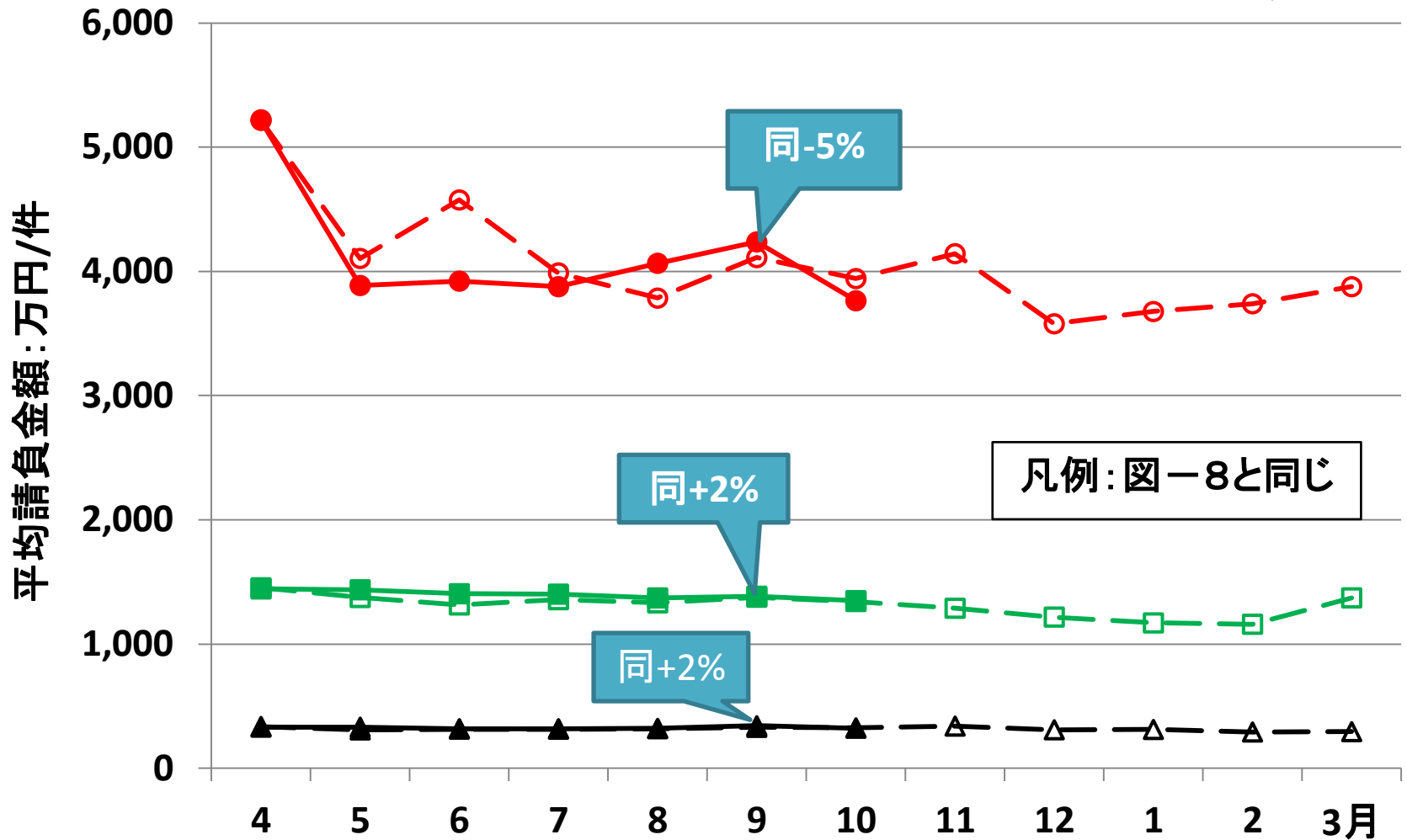


図-11 国交省旧建設系の平均請負金額の比較(業務)

業務の25年度平均請負金額も、昨年度と同程度に予想される。

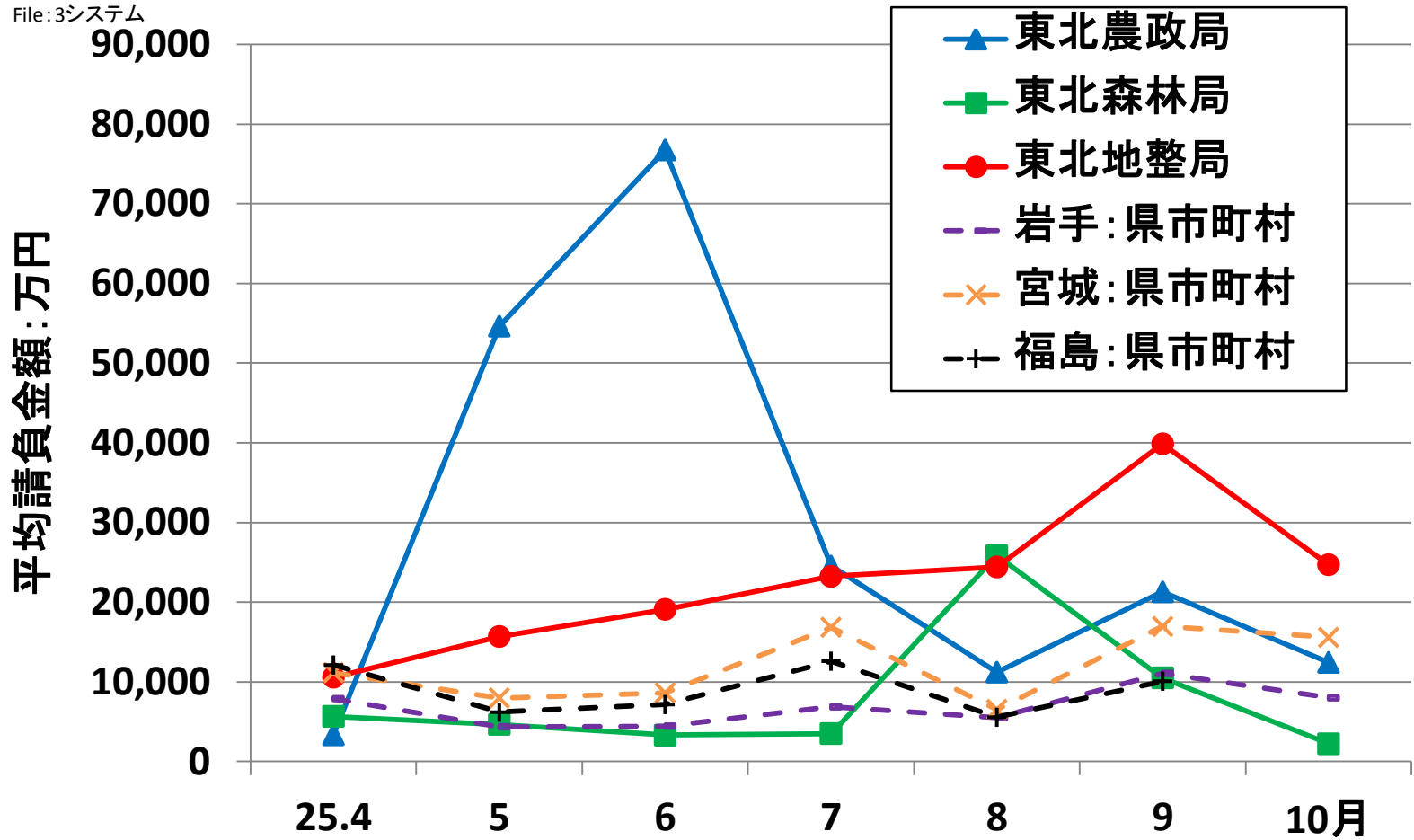


図-12 被災3県内の工事平均請負金額の動向

比較できるのは、東北地整局と岩手・宮城・福島3県の値である。

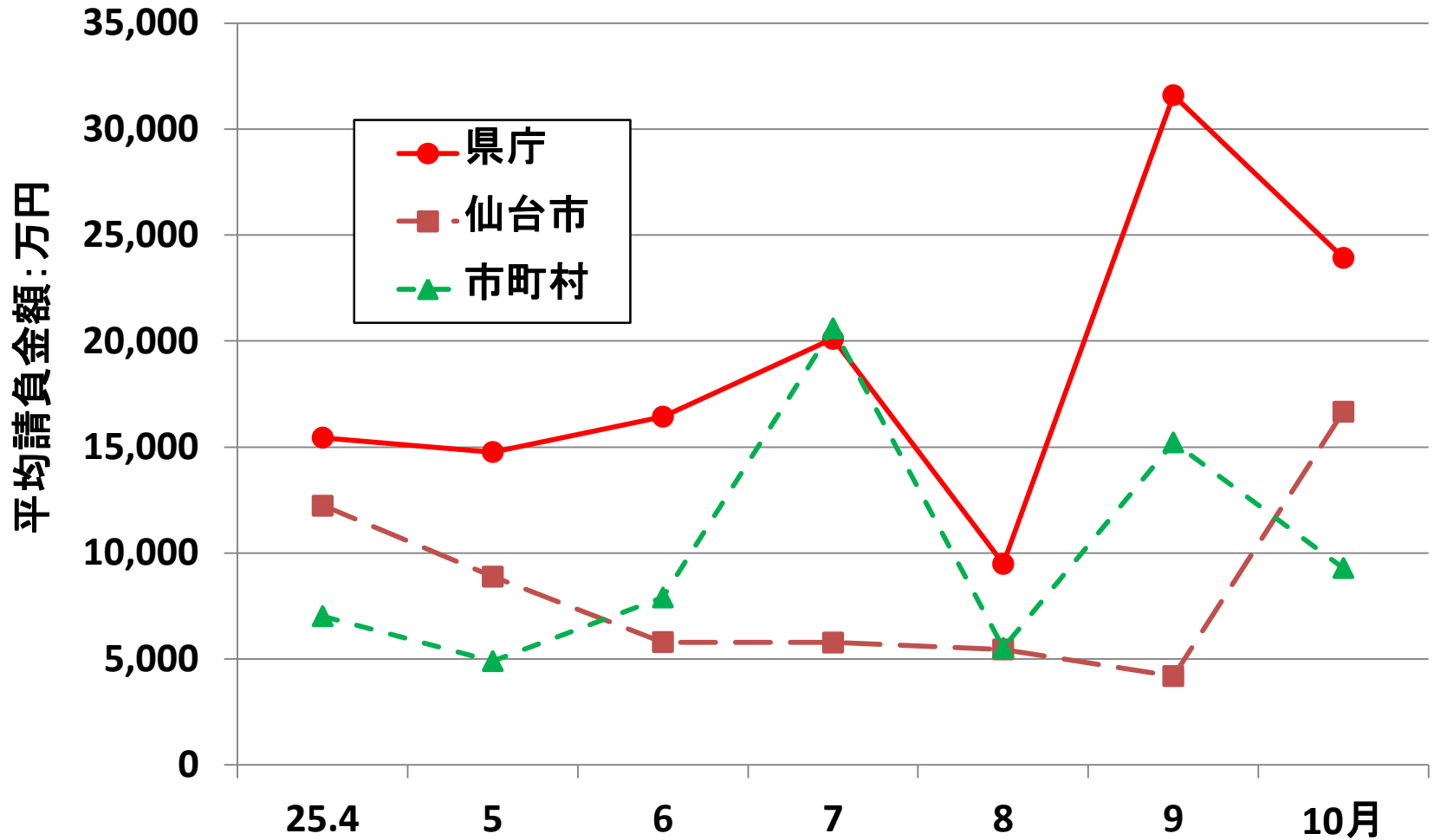


図-13 宮城県内の工事平均請負金額の動向

人件費・資材費の高騰、入札不調などの困難があり、変動が大きい。

考察と結論

- (1) 工事は、発注件数、請負金額、平均請負金額の各トレンドが23年度以降、上昇推移している。業務は変動が少なく、安定推移している。25年度上半期の前年同期比は、工事関係が+8%、業務関係が+3%であり、共に上昇を継続している。
- (2) 国交省、(財)建設経済研究所が公表した25年度の「政府建設投資」公共事業費の見通し額は、共に大幅な増加を予測している。しかし、26年度は相応の低減が心配される。
- (3) 24年度大型補正予算の本格的実施、震災復興事業の促進と人件費・材料費の高騰などの影響で、25年度は特に5,000万円/件以上の大型工事案件の増加が続いている。
- (4) 25年度の工事平均請負額は対前年度比+9%、6,400万円/件程度が期待され、22年度急落した“発注金額の小規模化”から回復しつつある。業務関係の平均請負金額は前年度とほぼ同水準の+2%、1,000万円/件程度が予想される。